

3年D組 外国語科 学習指導案

指導者 河野 圭美

1 時 間（場所） 11:10～12:00（3年D組教室）

2 個人研究テーマ

自律的学習者が育つ英語授業 ～インタラクティブなリーディング指導を通して～

3 研究テーマ設定の理由

グローバル化社会の進展，東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い，次代に生きる生徒には，英語でコミュニケーションする力が更に必要となる。そのために，英語を知識として蓄積するだけの学習者ではなく，学んだことを積極的に使っていく，更にそれらを伸長させようとする自律的学習者を育成しなければならない。

また，持続可能な社会を形成するために，異なる文化や歴史的背景を持つ人々と共存し，課題をよりよく解決することができる資質や能力が求められている。そのために，様々な考えを持つ人々が良好な関係を築きながらコミュニケーションを図っていくことが必要である。良好な関係の上に成り立っているコミュニケーションとは，相手の言いたいことを理解して適切に応じたり，自分の言いたいことを相手に分かりやすく伝えたりすることである。つまり，論理的に思考し，適切な表現や態度で表現する力である。昨年度までの研究において，ペアやグループでの学び合いが，生徒の自律性や学習成果を高めるのに有効であることが分かった。本年度も，仲間と共に学び合う関係において，論理的に思考し，適切な表現や態度で表現する力を発揮することを通して，学びの質や生徒の主体性を高め，コミュニケーション能力の向上につなげたい。

仲間と共に学び合う中で，「自律的学習者が育つこと」を意図して授業を構成することにより，自分の気持ちや考えを表現し伝える力を育成することができると考え，本研究テーマを設定した。

4 単元名 Chapter 4 Lesson 7 The Diary of Anne Frank

5 単元目標

○間接疑問文や as soon as～，too～to…，so～that…などの表現について理解し，運用することができる。

○本文を読み，グループで学び合う活動を通して，アンネの考えを理解し，戦争や平和について自分の考えを相手に分かりやすく表現することができる。

→話すこと（やり取り）②，話すこと（発表），読むこと① ※「CAN-DO リスト」との対応

〔本質的な問い〕

本文を読み，アンネの考えや心情について理解を深めるにはどうしたらよいか。

〔永続的な理解〕

本文を読んで理解を深めるには，読んで分かったことや思ったことを友だちに説明することが大切である。その中で，理解していることや理解できないことについて共有したり，質問し合ったりすることで学びが深められる。

アンネの考えや心情に迫るには，読み取ったことについて自分の考えを表現したり，友だちの意見を聞き合ったりして，自分の考えを深めることが大切である。また，当時の背景知識について学ぶことも必要である。

自分の考えを相手に分かりやすく表現するには，アイコンタクトや声の大きさなどのコミュニケーションスキルの向上に加え，今までに学習した表現を用いて，分かりやすい英文で表現することが大切である。

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標（第3学年 Chapter 4）				
話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
①道案内の場面において、基本的な表現を用いて、やりとりができる。 ②与えられたテーマについて、意見交換ができる。	与えられたテーマについて、理由や根拠を明確にして、自分の意見を相手に分かりやすく伝えることができる。	自分の人生について、情報や自分の希望や考えが読む人に正しく伝わるよう、文章の構成を意識して15文程度の英文を書くことができる。	議論での話し手の主張を聞いて、その内容を理解することができる。	①アンネ・フランクの日記を読んで、時系列で事実を読み取ったり、彼女の心情について考えたりできる。 ②550語程度の物語を読み、登場人物の行動や気持ちを理解することができる。

6 本単元と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

生徒たちは1年生の頃から、年複数回のパフォーマンステストを行ってきた。本年度は、これまでに3回パフォーマンステストを行った。1年生の頃は、アイコンタクトや笑顔、リアクションなどのコミュニケーションスキルに加え、コミュニケーションストラテジーを積極的に用いて、自然な対話ができる力を身に付けた。友だちの発表を聞いた後で行う質問を難しいと感じていた生徒が多くいたため、2年生では、全校的に取り組んでいる「問答ゲーム」と英語科で取り組んでいる「話型」を合わせて指導した。その結果、友だちの発表の後で質問をしたり感想を述べたりすることができる生徒が増え、対話をスムーズに行えるようになった。

3年生の教科書の内容は、日本文化や環境問題、世界平和などのテーマが取り上げられ、生徒たちはこれらの学習を通して、今までの自分を見つめこれからの生き方を考えるようになる。11月頃から、教科書本文の内容を学習した際、内容を理解した後で、フリーレスポンスの活動を行っている。本文を聞いたり読んだりして自分の考えや感想を話すことができるようになっていたため、リテラチャー・サークル（学習者が集まり読んでいる本について議論したり応答したりする活動）にも挑戦したい。よりインタラクティブな活動を通して、コミュニケーション能力も更に高められると考える。

(2) 単元について

本単元は、第2次世界大戦下のオランダで、アンネ・フランクが13～15歳のときに書いた日記である。アンネの日記は60か国以上で翻訳されており、聖書に次いでベストセラーとなっているノンフィクションである。本単元を通して、以下の3点の学びを保障したい。

一つ目は、間接疑問文、as soon as～, neither～nor…, too～to…, so～that…を用いた文の理解である。これらは、日常生活でもよく使われる文法であり、自由に使いこなすことができれば、話すことができる内容が広がる。また、これまでに学習した接続詞 when, or の用法、not～either, to 不定詞を復習しながら学ばせることで、理解を助けることができる。

二つ目は、生徒の学びに向かう力の伸長である。グループで本文の内容理解やフリーレスポンスなどの活動をさせることで、生徒自らが主人公となり、学ぶ楽しさを実感することができる。そして、その楽しさは生徒の主体性を育む。フリーレスポンスの活動では、アンネの生き方や考え、戦争や平和について、生徒自身の考えを表現させたい。生徒は今までに学習した英語表現や、身に付けてきたコミュニケーションスキルを用いれば、英語で意見交換ができる。自分の考えを英語で表現することに向けて、生徒自ら分からないことや言いたいことを調べるなど主体性が生まれる。このように読んで理解した知識を活用して、自分で表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力の向上を目指したい。また、相手の言ったことをきちんと聞き、それに反応する「実際のコミュニケーション」を目指したい。

三つ目は、よりよい社会や自分の生き方を思い描く力の育ちである。中学校生活をまもなく終えようとしている生徒たちは、今後の進路や生き方について考える時期を迎えている。絶望的な環境にいらながらも、自分の可能性や未来に希望を持ち、前向きに生きたアンネの生き方やアンネが残した言葉を深く理解していくことで、これからの社会や自分の生き方に明るい展望を持ってほしい。同時に、戦争と平和についても考え、平和な世の中を築いていきたいという心情を育てたい。

以上三つの学びを保障することで、教科領域テーマの具現化に資することができると考える。

(3) 指導について

英語科では、論理的思考力を「聞き手や読み手が理解できるように筋道を立てて分かりやすい英語で表現する力」としている。これを発揮しながら単元の目標に迫れるよう、前述の生徒の実態も踏まえ、以下の二つのことを取り入れる。

一つ目は、論理的思考力・表現力を育成するために全校で取り組んでいる「問答ゲーム」（相手からの問いに自分の考えをはっきりと分かりやすく伝えるゲーム）などの際の言語技術の手法を取り入れることである。6W1Hを用いて会話を行ったり、自分の意見を述べるときに結論を先に言ってから理由を述べるなど日本語で培った手法を英語の指導にも生かしたい。

二つ目は「話型」を取り入れることである。論理的に思考し、それを表現させるために、まずはその型をしっかりと身に付けさせることが大切であると考え、昨年度より「話型」を用いて話し合わせている。本単元でも「話型」を活用し、読んで思ったことや感じたことを自由に表現させるフリーレスポンスからリテラチャー・サークルに挑ませ、更に高いレベルのコミュニケーション力を育成したいと考える。

以上、二つを工夫して指導することで、単元の目標に迫りたい。

7 評価目標と評価方法

評価目標（観点）	評価方法（視点）
①グループで、積極的に自分の意見を話そうとする。 （コミュニケーションへの関心・意欲・態度） ②アンネの考えや生き方，戦争や平和について，自分の考えを述べることができる。 （外国語表現の能力） ③アンネの日記を読んで，その内容やアンネの考えや心情を理解することができる。 （外国語理解の能力） ④間接疑問文を用いた文の構造について理解し，運用することができる。 （言語や文化についての知識・理解）	◎パフォーマンス課題 あなたは世界各国から中学生が集まって、「戦争と平和」というテーマについて英語で話し合う中学生国際会議に参加しています。グループごとに分かれて、話し合ったことをポスターにまとめて発表してもらいます。その際、自分の考えを発表したり、他の生徒の発表したことについてコメントを述べたりしなければなりません。今までに学習した表現をできるだけ使い、自分の考えをはっきり述べなさい。 （評価目標の①②） ○観察 （評価目標の①②） ○ワークシート （評価目標の②③④）

8 指導計画（全7時間）

学習内容	評価規準（観点）	時間
○間接疑問文，as soon as～，too～to…，so～that…を用いた文構造を理解する。 ○導入として，アンネたちが隠れ家に移り住むまでのDVDを視聴する。	◇間接疑問文，as soon as～，too～to…，so～that…を用いた文の構造について理解し，運用している。 （知識・理解）	2
○Lesson 7A～7Dを読み本文の内容を理解する。また，アンネの考えを理解するとともに，アンネの考えや生き方，戦争や平和について，自分の考えを述べるができる。	◇グループで，アンネの考えや生き方などについて積極的に自分の意見を話そうとしている。 （関心・意欲・態度） ◇アンネの日記を読んで，読み取った内容について友だちに説明することができる。 （理解） ◇アンネの考えや生き方などに対して，既習表現を用いて，自分の考えを適切に表現することができる。 （表現）	5 本時 (その2)

9 本時の指導（4/7時間）

(1) 主 題 アンネの日記を読んで、意見や感想を伝え合おう

(2) ねらい

○グループで，積極的に自分の考えを話そうとする。

○既習表現を用いて，自分の考えを適切に表現することができる。

(3) 展 開

学習活動(形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価(方法)
1 英語で問答ゲームを行う。 (グループ)	4	○”Which do you want to visit, the past or the future?”のテーマで話そう。 CAN-DO I can express my idea.	○論理的に思考し、表現できる力が身に付くよう、6W1Hを用いさせたり、結論を先に言うことから理由を述べさせたりする。
2 話し合い活動のための準備を行う。 (グループ)	10	○それぞれのグループから同じ役割(要約・イラスト・質問・コネクター)の生徒が集まり、話し合い活動のための準備を行おう。	○ジグソー学習を取り入れ、友だちと話し合いながら準備させることで、学びを深めさせる。
3 本文の内容について話し合おう。 (グループ)	10	○自分のグループに戻り、役割ごとにメンバーに説明する。 ・ What can you see in this picture? ・ The children on the street were very hungry. True or False? ・ The story was shocking because….	○論理的に思考し、表現できる力が身に付くよう、自分の考えをまとめるときや話し合いのとき、話型を用いさせる。 ○リテラチャー・サークルの取組を行うことで、自分の役割への責任感と自立心を高めさせる。
4 DVDを見る。(一斉)	3	○ユダヤ人がナチスに連行される様子をDVDで見よう。	○対話的な学びを通して、理解を深めさせる。また、listening や speaking の力も高めさせる。
5 本文の内容を確認する。(一斉)	3	○本文の内容を1度聞き、音読しよう。	○スキーマを与えることで、推論発問に対する自分の考えを持たせやすくする。
6 読み取った内容について感想を話し合う。 (グループ) ↓ (全体)	15 (5)	○次の質問に対して自分の考えを英語で書こう。 Why do you think that no one helped those children on the street?	○即興で会話ができるようになるために、メモを取らせる。
7 本時の学びを振り返る。(個人)	(5) 5	(5) ○グループで自分の考えを伝えよう。また友だちの考えを聞いてコメントを述べよう。 ・ Because they couldn't help them even if they wanted to do. ・ Because they were afraid of Hitler. (5) ○全体で感想を共有しよう。 ○本時の CAN-DO やグループ活動での学びについて振り返ろう。	◇積極的に自分の考えを表現しようとしている。(観察) ◇既習表現を用いて、自分の考えを適切に表現することができる。(観察・ワークシート) ○論理的に思考し、表現できる力が身に付くよう、自分の考えをまとめるときや話し合いのとき、話型を用いさせる。 ○振り返りを通して、次回の自分の考えを表現する活動への意欲を持たせる。
授業研究の視点	○リテラチャー・サークルの活動は、生徒の主体的な学びにつながるものであったか。 ○話型を用いたことは、論理的に思考し表現できる力の育成につながるものであったか。		